

「体育・スポーツをすること」や 「汗を流すこと」が好きな子どもの育成

大分県中津市立大幡小学校

全校児童数	687名(男子370名 女子317名)		
全クラス数	25	教職員数	53名
体育専科教員訪問学校数			5校
訪問校	中津市立(①三保小学校②小楠小学校③今津小学校④三郷小学校 ⑤山口小学校⑥下郷小学校⑦上津小学校⑧南部小学校)		
体育専科教員名		藤原 昭治	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ・コロナ禍における日常活動制限により、運動やスポーツをすることが好きな児童の肯定的評価の割合が低くなることが予想される。
- ・本校の課題は走力や巧緻性、柔軟性(50m走やソフトボール投げ、長座体前屈)が低い学年が見られることである。全国平均と比較して達成率は約17%である。
- ・全校児童数687人に対して、運動場は狭く、休み時間に外で遊べる広さは十分ではない。同様に、体育館も狭い。道具も一人ひとりに行き届かないことが多いため、十分な運動量を確保するため昨年度の学年合同体育(90~120名)メインから学級体育や2クラス体育に移行中である。若い教師たちを育てながらも学級体育を軌道に乗せる必要がある。

2 取組の計画

- ① 学年合同体育(90~120名)から【学級体育への移行：3年目】によりアクティブな学び時間や20分以上の運動学習量の確保
- ② 年間を通して【ラジオ体操：3年目】や【なわとびチャレンジ：4年目】(様々な跳び方や連続跳びなど)を中核とした【家庭や学校共有：2年目】の体力向上。
- ③ マット、跳び箱、寒稽古と3回の特設期間の設定
- ④ 【体力アップ・カルテ：4年目】(カルテを診れば、児童個人の体力や生活習慣が一目でわかる。6年間継続できる。)により子どもたち一人一人が自分自身の体力を全国や県、昨年度の自分と対比させ自分に足りない力を考えさせる等の思考を深めさせる。
- ⑤ 校内環境整備(用具の補充・修理、練習用具の設置)
- ⑥ 振り返りの時間(自分のこと・友だちのこと・これからのこと)確保や体育見学カード(授業とリンク)の充実
- ⑦ 本校の実践体育授業を他校でも実施及び本校の各校一校一実践(なわとびチャレンジ)を他校にて研修会を実施し、本校をリンクさせ学びをよりアクティブなものにさせる。

Do：実践内容

- ① コロナ対策として体育館の各クラス使用時間割の実働や場の工夫(場を増やし運動学習量の確保)を行った。また、「3つの密」(密閉空間・密集空間・密接空間)を必ず避け、咳エチケット・手洗いを大切にすることも体育授業で徹底。
密閉空間…可能な限り外体育。体育館利用は窓全開。
密集空間…可能な限り学級体育。(2クラス体育でも分かれて学級体育)
密接空間…可能な限り2m以上離れて、会話も少なく。
- ② 年間を通してなわとびチャレンジ(巧緻性や走力等アップ対策含む)やラジオ体操(柔軟性等アップ対策含む)に取り組み課題克服や体力アップ

プ・運動習慣づくりを行った。

- ③ マット、跳び箱、寒稽古と3回の特設期間(柔軟性や巧緻性、走力等アップ対策トレーニング含む)を設定し、全校で共通理解して取り組み指導時間・運動時間を確保できた。
- ④ 職員室前の体育掲示板の充実。体育の授業や一校一実践を中核とした情報発信拠点で全校に一体感をもたらした。(例)頑張りが見え化したなわとびチャレンジ情報の随時更新。
- ⑤ なわとび用ジャンピングボードの増設5台、修理8台など校内環境整備を実施。(巧緻性等アップ対策含む)
- ⑥ 振り返りの時間(自分のこと・友だちのこと・これからのこと)を確保。
- ⑦ 本校の実践体育授業(職員用体育通信・TV放映含む)を他校で授業実施。

●工夫したこと(&苦労した点)

- ① アクティブラーニング(6年生を柱に、師範・達人(⇒腕に腕章)が①やってみせる②見取り⇒学びの活性化)の際はマスク着用。なわとびカードにクリアファイルを付けており、マスクの出し入れが容易にしてある。道具の工夫。
- ② 目につきやすい場所に体育掲示板を設置して、子どもたちはもちろん職員や来校者も立ち止まり見入るようにした。具体的には、**対比**(A≠B)、**類似**(A≈B)、**因果**(A⇒B)の3点を大事にしたり、できるポイント・できないポイントを大事にしたりして思考がアクティブになるような掲示内容とした。
- ③ Planの際に系統性(※)を大事にしたゴール地点の共有を軸に、毎朝始業前に各クラスに足を運び学級担任と打ち合わせをすることにより学級体育の一体感を実感した。※職員用体育通信

Check：取組の成果

- ① 体育におけるアクティブラーニングの実働。⇒継続は力
- ② 4年目も全校なわとびチャレンジ【なわとび愛好会発足】。⇒継続は力

Action：今後の課題

- ① コロナ禍にどこまで子どもたち一人一人の達成感や楽しさを感じさせられるかが課題である。
- ② Planの際に系統性を大事にしたゴール地点の共有。継続した学級体育への完全移行。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

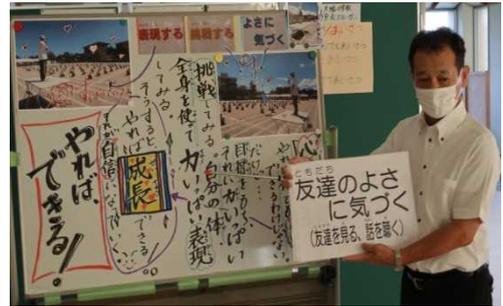
- ・学校全体の滋養強壮や活力にも好影響を及ぼしているように思う。
- ・若手教員が専科の授業をモデルとして実践→教職員の資質向上、育成につながる。

○実践内容

●職員室前の手書きの体育掲示板

・頑張りの視覚化 ・情報発信で一体感を全校に！！

・オンラインでも校長先生の話とリンク

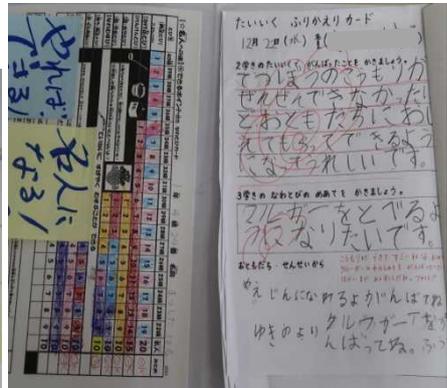
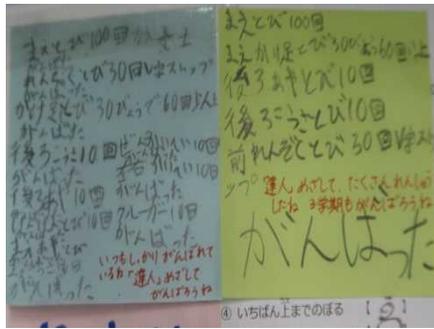
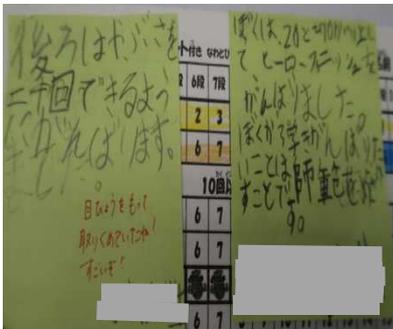


●6年生の取組⇒なわとび手作りポスター

●アクティブラーニング⇒6年生を柱に、師範・達人【腕に腕章】が
①やってみせる②見取って、書き込みやアドバイス⇒学びの活性化



③カードになわとびや体育授業の振り返りを文字に残す



●できるポイント・できないポイント⇒見学カードより

